

勝浦の偉人

(編集 中村裕明)

お万の方(養珠夫人)は勝浦城主正木頼忠の娘で、徳川家康の側室となった。また、徳川御三家の紀州藩と水戸藩藩祖の実母であり、八代将軍吉宗から徳川幕府が滅びるまでお万の方の子孫が徳川幕府を支えた。水戸黄門は孫である。



お万の方の像



お万の方の像のある八幡岬には正木氏の勝浦城があったが徳川家康により落城した。



武家屋敷のような江沢潤一郎の邸宅。外房一が誇張でないことがうかがわれる。(千葉県民だより1982)



外房一の大網元といわれた江沢潤一郎は明治7年に江沢学校(豊浜小)を私財を投じて建設し、医師を雇い種痘も実施普及した。

また潤一郎が開発した改良あぐり網はイワシの漁獲量を飛躍的に伸ばした。



大野貞斎(ていさい)は適塾(福沢諭吉などが学んだ蘭学塾)で学んだ後、勝浦に移り住み医業を営むとともに明治4年私塾を開き最新の学問や医学、道学(漢学)を教えた。私塾には吉野義巻(上野村初代村長)、中村孝(豊浜村初代村長)、伊庭弘道(成東町長)、関源吾(勝浦町長)など学んでおり貞斎は外房の発展に貢献した。この私塾は外房の適塾であった。